

第4回検討委員会 委員意見要旨

平成26年9月16日

(1) 第6次山形県教育振興計画(案)について

意見者	意見概要(回答または対応を含む)
池田委員	<p>全体的に、前回よりもスリム化されていて読みやすくなった。主要施策も委員の意見が反映されていて、とても機能的な内容となっている。</p> <p>【施策間の連携・連動】</p> <p>細かい施策や方針が他のものと連動したり、協同したりすると、効果的かつ、効率のよい対応ができるのではないかと。例えば、資料3のp63にある、インクルーシブ教育システムに関連した、特別支援学級の児童生徒との交流においても、スポーツなどとの協同・連携を進めていくことで、本施策の機能性も出てくるのではないかと。スポーツの分野でも、競技の交流やノウハウ、技術の交流が図られていて成果が現れている。色々な分野に分かれているものが、協力・連動することで、「つなぐ」ことを施策自体で示すこととなり、血の通ったものになる。</p> <p>資料4に記載してある、スポーツ庁の設置に関しても気になった点がある。パラリンピックの管轄もオリンピックと同じ文部科学省に変わり、一元化が進められた。それにならってパラリンピックとオリンピックを連動させ、スポーツは障がい者スポーツも含め全て1つであるという印象を持つような文言を使ってほしい。スポーツ基本法の制定により「全ての人々」という言葉が使われているように、2020年のオリンピックに向けて「全ての人に」ということは大切なキーワードになる。これらの点に気をつけて言葉を使ってほしい。</p> <p>【部活動の在り方】</p> <p>資料3のp43にある部活動について、小・中・高の垣根を越えた部活動の在り方について記載されていてよかった。現場では少子化による競技人口の減少が問題とされている。ぜひ、部活動の在り方に関する議論を深めてほしい。</p> <p>また、フェンシングの強いハンガリーでは、金メダリストとフェンシングを始めただけの小学校低学年の子どもが一緒に練習できる環境がある。フェンシングというキーワードで様々な人たちが集まり、様々な会話ができる環境があった。このように、様々な人たちが集まる機会を生み出している環境づくりということも、部活動の今後の在り方に参考となるのではないかと。</p> <p>この6教振において1番大切なのは教員など、教える人たちの人間力である。人として尊敬でき、かつ人間力の高い教員を育ててほしい。</p>
石原委員	<p>【生徒と向き合う時間】</p> <p>主要施策11に関して、信頼される学校づくり、教員の多忙化も含めて、非常に重要なところ。しかしながら、教員は生徒と向き合う時間が取れない現状がある。その大きな原因は、家庭でやらなければいけない教育を全て学校で行わなくてはならないからである。</p> <p>今、国を挙げて教育再生に取り組んでいるが、その「再生」という言葉に疑問を感じている。「再生」という言葉は、今の教育がダメだから別のものに生まれ変わらせるという印象を感じさせる。</p> <p>【私立学校の振興】</p> <p>私立学校の振興について、明記されており大変ありがたい。私立学校はそれぞれの学園で教育方針が存在しているが、私立学校と言えども、その学校自体の所在は山形県である。6教振によって山形県の教育の方向性が示されるので、私立学校でもその指針に沿っていきたい。</p>

大場委員	<p>【特別支援教育の推進】 障がいのある子どもだけではなく、一般社会の方々も含めて、共生社会を目指すという大きな流れの中で、様々な動きが進められている。 その中で、障がいのある方々の話題も多く取り上げられているが、障がいのある方、ない方、全てが互いに理解し合える世の中になっているのか。山形県の教育、6教振で、少しでも、特別支援教育のみならず、全ての教育分野を合わせて、互いを理解し合えるという場面が出てくるとよい。 平成19年4月に特別支援教育に制度が変わって、目を見張る変化があり、これからの10年間、具体的な方策として5年間を進める中で、他の方針等と確実に機能し合いながら進めていきたい。 山形県の場合は、教育の中身だけでなく、ハード的な面も再編整備計画として一緒に取り組んでいるので、いっそう進めてもらいたい。 基本目標やテーマなどは、整理されていてイメージできるものになっている。</p>
落合委員	<p>各委員の意見を汲み取った内容となっており、スリム化され、わかりやすい内容にまとめられている。 【言語力の向上】 確かな学力の育成、p49にある理数や英語の学力をつけるだけでなく、国語力特に言語力を高めるモデル授業も入れてもらいたい。 【親への教育の機会】 親の意識として、いじめの問題などを全て学校の問題として転嫁する傾向にあるように思う。親の意識と学校の意識が、同じ方向を向けるように親への教育を大切にしたい。</p>
栗田委員	<p>基本目標、目指す人間像、特別支援教育など、各委員の意見を取り上げられており、わかりやすくなっている。 【いのち・農・食】 いのちと農と食は、一番密接な関係にある。山形で育てた作物を食べ、元気に、健やかに生きていけることが大事。お金だけで評価されるようなものづくりを、山形から変えていくべきではないか。</p>
黒田委員	<p>子どもたちの数は、これから減っていくが、数に左右されない価値と輝きがあるということを、子どもたちに教育してほしい。 【教員の力の発揮】 英語を使った授業などは教員にとって負担になると思うが、英語が話せる教員と、英語が話せるようにさせる教員とは違う。子どもたちにも自尊心を育てていかなければならないが、教員も自分の良さを自覚して、その力を発揮できる学校にしていかなければならないと思う。 【価値を表現できる人に】 教育の中で大事なことは、表現できること、そして、表現できる内容があるということ。自分の周りにある、自分たちを支えている食べ物を作ってくれる人たちがいる話や歴史など、日本人として、山形県人として、その価値を人に伝えていける人間になってほしい。 家庭でも、教育の中でも、人同士が向き合う時間を作っていくことが大切である。</p>
酒井委員	<p>委員一人ひとりのそれぞれの立場からの意見を全て網羅した内容に仕上がっている。テーマについても、いのち、学び、地域とすっきりとした形でまとめられており、この3つが「つなぐ」という中に網羅されている。非常にわかりやすいテーマとなった。さらに、基本方針も10にまとめられ、大変読みやすくなっている。 【親を巻き込んだ「いのちの教育」】 また、「いのち」をつなぐで、「いのちの教育」を大きく取り上げてあり望ましい。現在の子どもの様子を考えると、特別な支援を要する子どもが増えていると感じている。それは、発達障がいの子どもの数が増えているわけではなく、子どもの育ちの中で心が育っていきなく、発達障がいの子どもの数と同じような様相を呈している子ども</p>

	<p>もが増えていると感じている。このような子どもの様子を見ていくと、愛着形成の段階で問題があり、友達とトラブルを起こしたり、なかなか教師の言うことを聞くことができなかつたりしている。このことは、「いのちの教育」の中で、学校が親を巻き込んだ教育をしていくことが大事であることを改めて感じさせる。</p> <p>【次代の親としての教育】</p> <p>この「いのちの教育」を幼・小・中・高の全学校で、そして、大学にまで伝わっていくように実践していく展開が大事になってくる。</p> <p>その中で、親としての在り方や子育てについても、学校教育で盛り込んでいくべきだと思う。学校・家庭・地域が一緒に行っていくことで、すばらしい「いのちの教育」となっていく。</p> <p>【地域を学ぶ学習】</p> <p>p 38の様々な体験活動・奉仕活動の充実について、校長同士での話合いの中で、6教振で「地域」が取り上げられることが話題となった。小・中学校の統廃合が進み、スクールバスで通う子どもが多くなっている。そうした中で、子どもたちのもともとの地域がなくなっていること、総合的な学習の時間等で地域を学習しても、本当の自分の地域ではない地域を学習することになることなど、自分の生まれ育った地域を学習する機会がなくなっている現実がある。また、学校の前まで、スクールバスでの送迎を行うことにより、子どもたちの体力・運動能力が激減している。</p> <p>地域と子どもたちを結びつけるために、今までより進んだ計画として、遠くから登校する子どもたちに対する地域を愛することのできる活動を行う必要があり、地元に戻る時間を作ったり、地域のお年寄りの話を聞いたり、地域に伝わる伝統文化に触れたりする機会を、学校が積極的に行うべきことを改めて感じている。</p> <p>【探究型学習】</p> <p>これから大切となる探究型の学習を、高等学校の学習まで盛り込んでいくことは、さらに考える力、ものごとを判断する力を身に付けさせる教育ができると考えている。そういうことを、日常の授業の中にしっかりと取り入れていくことは、6教振の中でも目玉となるものである。</p>
<p>後藤（敬） 委員</p>	<p>【未来につなぐ命】</p> <p>一人ひとりの命を大事にするという姿を大人が見せていく必要がある。</p> <p>お腹の中にいた赤ちゃんを優しく育てること、受け止めることで、もうすでに優しくなろうと思う前に優しい人間を育てること、いじめをなくそうではなくて、いじめなくてもいい子どもに育てることで、人の優しさや温かさを知る人間を育てていく。そのように、私たちのかけがえのない命をつないでいくことにより、今の子どもたちが大人になり親になったときに、その命はいつそう輝いたものになっているだろう。</p>
<p>笹原委員</p>	<p>この検討委員会に参加でき、委員の方々の様々な意見に触れ、勉強になった。お話しした意見については丁寧にまとめていただき感謝している。</p> <p>【人と人がつながる】</p> <p>第1回の検討委員会での岡崎委員と千葉委員の話が印象に残っている。それは、幼稚園や保育所では子どもが朝早くから夜まで過ごし、おむつはずしや離乳食を子どもに与えることも園や保育所で行っていること。本来は幼稚園などで遊びの中でつながっていくはずの子どもたちが、なかなかつながっていかないということだった。</p> <p>今回の6教振のテーマに「つなぐ」ということが出されてよかったと感じている。小学校に入学したときは必ずしもつながっていない子どもたちが小・中・高の教育を通してつながっていく、そして社会に出た時、他の人とつながることができるということが大事だと思っている。3月のこの検討委員会の中で、森岡委員から利他という話があったが、それは非常に大事なことだと思っている。相手のことを思いやりったり気遣ったりできる利他の精神でつながっていける人が、これからの山形を培っていくのではないかと思う。</p>

	<p>【探究型学習でのつながり】</p> <p>学校教育では、自分さえ授業がわかればいいという子どもではなく、自分が理解することも大事だが、隣の子がわからないのであればその子にどう教えればいいのか考える、相手を思いやることができる子を育てていきたい。</p> <p>探究型の授業づくりでは、わからないとか、どうしたらよいのだろうということが必ず出てくることで、課題を解決するために子ども同士がつながり合い、学び合いの授業になっていく。是非これを進めてもらいたいと考えている。</p> <p>人間像の「学び続ける」ということも大事だが、つながりということから考えると「学び合い」という観点も必要だと思っている。社会に出ても学び合いながら社会をつくっていくということが大事だと思っている。</p> <p>【青少年の育成】</p> <p>親の価値観や考え方はなかなか変わらないので、親になる前の青少年の育成が非常に大事だと考えている。しかし、Y Yボランティアなど青少年の育成が非常に難しい状況にある。市町村の社会教育関係職員が減り、青少年を育てていく職員が減っていることで、サークル数が減り、参加者が減り、中身も薄くなっている。社会教育関係職員の定数を増やすことは難しいと思うが、大事にしてほしい。中学生も高校生もボランティアをやりたいという子どもは少ない。その受け皿としてのサークルの活性化を図る必要がある。中学生がそういった地域の活動に参加することは、地域と「つながる」ということで大事だと思っている。</p>
柴田委員	<p>全体的にスリムになり、非常に読みやすくなった。特に第2章については、今までの山形の教育からこれから目指す山形の教育の姿がわかりやすく記載されていると思う。</p> <p>【習得から探究へ】</p> <p>高校教育の立場から見ていくと、確かな学力のところで「習得から探究へ」という言葉が入っている。この言葉のとおり、学びの形をそろそろ変える時期に来ていると思っている。もともと学ぶことの本質は探究にあると思うが、いつの頃からか知識をたくさん入れないといけないという強迫観念にかられていたところがある。今後は、習得そして探究へというところを目指していきたい。</p> <p>理数教育とか探究的な学びに関して、鶴岡南高等学校ではSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定されているが、この中でやっていることは、探究的なテーマを自分で決めて、それを調べたり研究したりして、1枚のポスターにまとめ、それをもとに周りの人に説明するということ。5分ぐらいで次々と説明すると、コミュニケーション力がつき、ポスター1枚にまとめる作業では自分のやってきたことを端的にまとめるという力もつく。横浜でSSHの発表会があったが、刺激的だった。山形県もこういったことをしっかりやっついていかないと取り残されるという危機感を感じたところ。論理的思考力やプレゼンテーション能力は、探究的な学びをし、発表させることでついていくと思う。</p> <p>【教職員のマネジメント研修】</p> <p>次に大事だと思っているのが、主要施策11の研修。マネジメント研修について、私は管理職になってから初めて受けたが、これはある程度の年齢になったら知っておくべき内容だと思う。学校全体を考えて教育をしていくという意識を持てるように40歳代等でこういった研修を全員が受けられるようなシステムが欲しい。</p> <p>【小・中・高の連携】</p> <p>小・中・高の連携について、高校の教員は中学の教科書を見て研究して高校の授業を組みなさいということによく言われているが、この逆もある。大学の入試や先の目標を見て授業を作っていくことも大事。入ってくる子どもの状況を見て、出ていく先のことも見ながら授業をつくっていく。これは、小・中でも同じだと思う。そういうつながりのところをうまく連携していけないかと思っている。</p> <p>【道徳の教科化】</p> <p>個人的な考えではあるが主要施策2について、国の方針を受け、道徳を教科化する</p>

	<p>ることになると思うが、高校で授業をして話し合わせたりしてやっていくことについて、道徳というのはそういうものなのかという点について疑問は残る。</p> <p>【いじめへの対応】</p> <p>また、いじめのない学校づくりという言葉についても、違和感がある。いじめは人間関係の軋轢であり、必ずあるものだと思っている。まったくいじめのない学校から社会に出て行って果たして大丈夫だろうか。いじめの問題が起こるといじめ撲滅という声が高まるが、本来はそういう状況になったときにそれを廃絶できる子どもたちを作っていかなければならないのではないか。そのためには教員はアンテナを高くしないといけないし、追いつめられる生徒が出ないようにしなければいけないと考えている。</p> <p>【ICTの活用】</p> <p>ICTの活用については、前にも発言したとおり実験の代わりに使われるようではいけない。ICTでなければできないような映像などの分野で活用すべきで使い方に気をつけなければいけない。教員の中の便利なツールで終わってしまう恐れがある。</p>
角屋委員	<p>【文化財行政等】</p> <p>米沢市の指定文化財の指定のお手伝いをして文化庁と一緒に仕事をすることが多かったが、その時に山形県の文化財行政は遅れていると言われていた。公文書館がないなどのことを言っていると思われるが、今回の計画では公文書館の必要性や県立博物館のことも取り上げられたので、将来性を持てるような計画になったことをありがたく思っている。</p> <p>一方で、そういった整備をしてもらって生じる効果ということを考えると、社会教育の面の人員不足や公民館の指定管理者制度の導入などで基本が十分でない環境が、一方ではあるのではないかという懸念がある。</p> <p>【博学連携】</p> <p>博物館等を利用していただくよう、博学連携を掲げてやっているが高等学校にお誘いしても受験に差し障るという返事をいただくことも多い。学校で利用いただく場合は先生の多忙化を増やしてしまうかもしれないという心配もある。計画で記載されたことをもとに真の博学連携ができるような運用がされ、具体化されることを期待したい。</p> <p>【探究型学習の必要性】</p> <p>探究という言葉がでてきたが、博物館の展示方法を今までの時代に沿ったものをやめ、テーマ展示で来館した人が自由に知りたいことを意識をもって探せるようにしている。しかし、アンケートの第1位は順序がわからないというもので、いかに今まで与えられたものを学んでいたかがわかる。この計画をもとに自分で考えて学ぶことができるようになることを願ってやまない。</p> <p>【コラムの記述】</p> <p>今回、コラムをたくさん入れていただいて親しみやすくなっているが、p20の「鷹山の教え」の中で7行目に「米沢の基礎を作り上げた上杉鷹山の」とあるが、今、米沢の基礎を作り上げたのは基本的には「直江兼次」とされている。「農業・産業の振興や学問を奨励して再生し、現在の米沢に大きな影響を及ぼした上杉鷹山」といった表現の検討をお願いしたい。また、「目先の繁栄を捨てて」の部分は「行き詰った現状を打破し」などの表現となるよう検討をお願いしたい。</p>
武田委員	<p>全体的にシンプルになり、目指すものが明確になったと思う。</p> <p>【山形方式の総合的な地域本部】</p> <p>主要施策16について、子育て地域の連携についてはこれまでも十分認識されてきたことだが、実際にはなかなか地域や学校、活動団体の思いが一つではないこともあり、目に見える推進という形にはなっていなかった。今回、「つなぐ」という言葉がでてきたことでしっかり進めていただきたいと思っている。</p> <p>「山形方式の総合的な地域本部」ということを打ち出していただいたということ</p>

	<p>は画期的なことだと思っている。「山形方式の総合的な地域本部のイメージ」に書いてあるとおりにできれば推進力をもった器づくりができるのではないかと期待している。是非、モデル地区などを設けて取り組んでいただきたい。</p> <p>笹原委員が先ほど言われたジュニア・リーダーや青少年ボランティアの活動などは非常に期待しているところ。そういう活動をしている子どもたちにも焦点をあて、コーディネートしていきながら、地域の大人がやってきたことに刺激を与え、活性化するのではないか。</p> <p>【土曜日の教育環境の整備】</p> <p>p 82の土曜日の教育環境の整備については、今回、土曜授業という選択肢もあるなかで6教振の中では教育環境の整備を選択したということは、非常に意味があると思っている。学力のことなどが話題になっており、なぜ山形は土曜授業をしないんだという考えもある中で、あえて土曜授業ではなく、土曜日の教育環境の整備を進めていくという意思表示をしていただいたことは大変ありがたい。しかし、5年後、10年後、山形の子どもたちがどのように土曜日を過ごしているかを想像したときに、今と同じであっては非常に残念な結果だと思う。</p> <p>そうならないように、地域のコーディネートを進めていただき、学校だけでは学べないことを学ぶ機会を、山形の子どもたちがたくさん得られるようになるよう期待している。たとえば、「教育の土曜日」といった形で月に1度は教育活動が優先されるような日があるといいのではないか。それが山形県の社会で認知されるようになるといいと思っている。</p> <p>【開かれた学校づくり】</p> <p>開かれた学校づくりについては、「学校がもつ様々な課題や情報を発信し・・・」とあるが、一步これを踏み込んで、学校が家庭やPTAや地域に学校がやってもらえると助かることをどんどん発信していくといいのではないか。今までは学校でやるべきことには手を出せない感じがあったが、その垣根を壊し、コーディネーターや支援本部などを活用して学校側が自ら発信し、家庭や地域がそれを支援する仕組みづくりをしていけたらいいのではないか。</p>
千葉委員	<p>たくさん出した意見をまとめていただき感謝している。</p> <p>【親への教育の機会】</p> <p>幼稚園の立場から意見を出してきたが、家庭教育の力がだんだん落ちてきて、幼稚園・保育所に生活習慣を担ってもらっている保護者の方が多い。乳幼児健診・就学時健診での研修・講演で保護者の方に様々な情報を提供することによって、全員がそれを聞かざるを得ない状況をつくることは大事だと思っている。</p> <p>【幼・小の連携】</p> <p>幼稚園は遊びから学ぶということが充実している。それを小学校につないでいくということで、「つなぐ」という言葉を充実させていかなければならないと思っている。このようになれば、10年後、20年後にいい子ども・社会人が育つのではないか。</p> <p>【幼稚園教諭・保育士の研修】</p> <p>幼稚園・保育所の先生の研修について、充実させていただきたいが、抜けた人員の確保に苦労している。その先生が担っている役割を補うことが、現在は難しい状況にある。難しいとは思いますが、幼児教育にも「さんさん」プランのように少人数教育ができるといいと思っている。子どもたちのためにも先生の資質向上が大事だと思う。</p> <p>【放課後児童クラブの現状】</p> <p>主要施策の16の放課後児童クラブについて、市の委託を受けて現在行っているが、愛着障がいのお子さんが多い。学校とは違って家庭的な雰囲気子どもを迎えるのだが、まずはおんぶや抱っこをせがむなど、家庭でスキンシップが足りない分を求めている。しかし、親御さんは迎えにきたときに、お子さんをねぎらう言葉もなく、早く急かすような状況であり、このあたりも考えていかなければいけないと思</p>

	<p>っている。放課後児童クラブでは、一人暮らしのお年寄りに足を運んでもらい、昔ながらの伝承遊びや昔話をお願いしている。そんなことも進めながら子どもたちを育てていきたいと思っている。</p>
森岡委員	<p>全体の目標・テーマ・体系については各委員からの発言にあったように、計画としてしっかりとまとめられている。</p> <p>【探究型学習の推進】</p> <p>基本方針Ⅲの中でコミュニケーション能力と探究型学習について取り上げられたことは、基本方針Ⅳの勤労観等につながるものだと思っている。コミュニケーション能力とコラボレーション能力は、人間関係を構築する力だと思っている。「知識偏重の学習から探究型の学習を歓迎する」という委員の方々の意見があり、心強く思っている。上杉鷹山の師である細井平洲は、「教育というものは農家が葉っぱや大根を作るように、出来のいい子も悪い子も同じようにかわいがって、茄子は茄子なり、瓜は瓜なりに育てる事である」と言っている。探究型の学習を通じて、一人ひとりが自分のどこが良さなのかを見つけ出して、社会で自立するための力を養う。自分自身が存在する足場を見つけていく大きな機会になるのではないかとと思っている。</p> <p>【人材の育成】</p> <p>確かな学力の育成のところで、非常に高度な理系の専門分野に焦点が当てられているように感じる。企業文化を醸成する人材は文系が担うところが大きい。それは、グローバル化の中では自分で考えながら答えのない問題に答えを出していくという人材が求められるが、高度成長時代の調整能力、事務処理能力に優れた人材では通用しない。例えば、スーパーサイエンスを持つ人材を、どのようにグローバルな経済環境、組織の中で経営戦略的な責務を担って活躍していただくか、という新しいグローバルな時代の「マネジメント能力」や「リーダーシップ」がとれる人材の育成が、さらに重要な課題であると考えている。そういう人材がいれば、特異な才能を持つ理系人材をグローバルな視点で活かすことができる。確かな学力の育成の各項目のところに理系だけではなく、是非文系も重要視していただければありがたい。</p> <p>今回の委員会を通して、つながりという言葉がキーワードとなっている。早速、企業の立場として実践しなければと考えると、今年、採用した社員の試験採用期間における、職場でのコミュニケーション力や仕事の様子などをまとめ、出身の学校の先生に近況を伝えながらにお渡ししてきたところである。</p>
後藤（敬）委員	<p>【老いを伝える】</p> <p>この計画をどういう思いで策定したのかということ伝えていかなければならないと思っている。そして、これからの時代、老いが今育てようとしている子どもたちにどう関わってくるのかということも考えていかなければならないと思っている。</p> <p>先日、相談を受けた子がいた。スポーツも勉強もできる優秀な子だったが、突然、塾もやめ、部活もやめて早く帰宅するようになった。話を聞いてみると、共稼ぎで忙しい両親に代わって育ててくれた祖母の介護が必要で、祖母を家で一人にしないようにするため、早く帰るようになったのだと言う。自分でできることを考え行動した結果だった。そういう子どもの行動をほめてあげられるような環境でありたいと思っている。</p> <p>老いにどう関わっていくのか、その姿を子どもたちに伝えていかなければならないと思う。生きる力、人間力をしっかり見せていく、そして訪れる老いを言葉ではなく、姿で伝えていく。これから先の人たちが老いについても考えられるように導くのもこの計画に隠れた使命なのではないかと思っている。</p>
菊川教育委員	<p>【英語によるコミュニケーション能力】</p> <p>p 53に載っている、「我が国の伝統・文化・歴史への理解を深めるとともに、母国語である日本語の十分な習得を基盤として、外国語、特に英語によるコミュニケーション能力の育成を進めていく必要があります。」が、正にこれからの時代、</p>

	<p>重要視されているのではないかと思っている。</p> <p>できれば、高校卒業時点で、英会話（日常会話）ができるような英語教育になるのが理想だが、今の状況ではなかなか難しい。</p> <p>p 5 5③高校生の海外留学等の支援とあるが、現在の教育システムで短期間に英語力をつけるには、これしかないと思っている。日本の高校生で、アメリカに1年留学してくると流暢な英語を話せるようになって帰ってくる。</p> <p>また、ただ留学すればいいというわけではないと思っている。会話もままならない状態で留学した場合、どうやって暮らしていくか教えなければならない。ある高校生は、1カ月間誰も話しかけてくれなく一人である状態が続いたが、あちらの学生の名前を当て字で漢字で書いてあげたり、漢字を教えてあげたりすることで、友達が沢山できた。このように、行く支援だけではなく、どうやって生活していくかのケアも必要になってくる。</p> <p>【県弁護士会での取組み】</p> <p>山形県弁護士会で、5、6年前に法教育委員会をつくった。p 2 8「思いやりの心と模範意識の育成」にも載っているが、弁護士会でも何か力になれないかということで、4、5年前から、模擬裁判を体験してもらう企画をたてた。毎年、高校を指定し、1年生に体験してもらっている。公平さ正義感を身に付けるお手伝いをしている。</p> <p>6教振の計画が全て実現されれば、日本一の山形、世界一の山形になれると思いつながりながら読ませていただいた。</p>
<p>松村 教育委員</p>	<p>【県全体での意識付け】</p> <p>教育というのは、0歳から一生を閉じるまでをつないでいかなければならないのだと感じた。そのために、山形県の教育が何をしていくか、未来に向けて子ども達をどう育てていくか、これは学校だけではなく老若男女、全ての人がしっかりと意識付けしていかなければならないと感じている。</p> <p>生涯教育できるエリア・コミュニティが、山形県にあればとても素敵であり、子ども達も大きくたくましく育つと思う。色々な場で色々なコミュニケーションができる機会を全員持つことが必要である。それによって、全ての方に生きがいを持ってもらうことができ、そういうことを意識したうえで、子どもの教育をしていけたら、すごいことになると思う。</p>
<p>涌井 教育委員</p>	<p>【計画の広め方】</p> <p>今後、どうやってこの素晴らしい計画を伝えていくか。そこが重要である。お集まりの皆さんに、熱い思いを語ってもらうことで伝わるのではないかなと思う。</p> <p>最終的に、子ども達がこの世の中をどうやってたくましく生きぬいていくかが大事なことである。</p>
<p>長南 教育 委員長</p>	<p>子どもが育つ環境を作るために、文章で伝えなければならないことが難しい。この1年3ヶ月の話合いで、現在の6教振（案）の基本目標・テーマ等は、非常にわかりやすいものとなっている。</p> <p>【教育環境づくり】</p> <p>子どもが育つ環境を整備しすぎることは、子どもにとって、育つ力を阻害してしまうこともある。それぞれの教育関係者が、いかに心を動かして、子どもにとって、良い環境を作っていけるか。</p> <p>今後、順序よく「つながる」ということを大事にしながら進めていきたい。</p>
<p>出口 委員長</p>	<p>6教振（案）の中に、大学の文言をたくさん入れていただきありがたい。大学も地域の学校であり、大学にたくさんの高校生が入る時代となってきている。いただいたご意見は、大学としても、教員の問題等、しっかりと取り組んでいきたい。</p> <p>【6教振の検討課題】</p> <p>原点に立ち返ると、少子化の問題、地域コミュニティの問題、そして今の教育の</p>

課題の3点が、この検討委員会に諮問があったかと理解している。6教振を検討している間にも、体罰の問題、いじめの問題、学力の問題等が課題となってきた。

【県独自の評価調査】

その中でも、p48の中に、県独自の評価調査の項目として、学力に関わることが記載されている。県全体で行うことは、なかなか難しい問題ではあるが、一人ひとりの子どもをしっかりと育てていくことが教育の中心となるので、子どもの近くにいる教師が、授業改善を通して子どもを育てていくことが大切であり、評価をして終わりではなく、評価を活かして子どもを育てていくという調査の在り方を探究していくことで、山形県の子どもを継続的に支援していけるものにしてほしい。

結果の評価ではなく、子どもたちを育てていくことに資するような評価の検討にしてほしい。探究がテーマとなっているので、探究型の評価に取り組んでいくことで、学び続けるだけでなく、学び合える人にまで育てていけるのではないか。

最後に、原点の3点に立ち返ると、それが、キーワードの、いのち・学び・地域という言葉になったと考えている。「つなぐ」は、委員の方々の理念だけでない、実行できる、すぐにでも実践できる具体的な言葉として表されたものと考えている。